

セッション名	発表形式	発表日時	講演番号		筆頭者名	発表タイトル	紹介文（50～200字程度）	キーワード（最大3つ）
Gジェネラルセッション	ポスター発表	9/14	G-P-11		星 博幸	背斜と向斜の教え方	地学という教科は高校までない。それも必修ではない。それに対して、小学校から理科という教科の中で、地学の基本概念はほとんど教えられている。発表者はこの部分に注目して、どのように基本概念を導入したらよいか提案している。地学教育の基本にかかわる重要問題である。	地学教育 向斜 背斜
T01 変成岩とテクトニクス	ポスター発表	9/15	T1-P-31		古川 旦	岩石中で著しく粗大化した単結晶の形成メカニズムとシミュレーション：高島マントルゼノリスを例に	岩石組織は多くの場合非平衡であり、平衡状態に向かう途中であるためその岩石が保持された状態の継続時間を見積もれる可能性がある。本研究はビン止め効果のような粒成長を阻止する現象があっても時間情報を抽出可能である異常粒成長に着目している。このような組織を含んでいる佐賀県高島産のダナイトゼノリスを例にとり、組織観察とモンテカルロシミュレーションを組み合わせて異常粒成長発生の妥当性を検証し、時間情報抽出の可能性を探っている。	異常粒成長、マントルゼノリス、ビン止め効果
T01 変成岩とテクトニクス	ポスター発表	9/15	T1-P-30		岡田 花	糸魚川市山之坊地域における角閃岩類の起源とコスモクロア輝石との成因関係	コスモクロア輝石はCrを主成分に含む希少な輝石である。2019年に新潟県山之坊露頭での産出が新たに記載されたが、コスモクロア輝石とその周囲をとりまく角閃岩の成因関係が理解されていない。本研究では野外調査・岩石組織観察・鉱物化学分析を行い、曹長石、ヒスイ輝石、角閃石、クロム鉄鉱、蛇紋石が複数のステージによって反応し、最終的にクロム鉄鉱と鉱化したNa2O成分が反応することでコスモクロア輝石が生成したことを明らかにした。	角閃石、コスモクロア輝石
T01 変成岩とテクトニクス	ポスター発表	9/15	T1-P-16	エントリー	會田 幸樹	三波川変成帯の超苦鉄質岩体の分布と産状	日本列島の三波川変成帯（御荷鉾帯起源も含む）では、多様なテクトニックセッティングからもたらされた超苦鉄質岩体が点在している。著者らは、約40岩体・約200試料という圧倒的な量の野外調査・試料観察を行い、超苦鉄質岩の特徴を議論している。三波川帯の超苦鉄質岩類の分布と起源・テクトニクスについて、これまで以上の情報が得られることが期待される。	蛇紋岩、橄欖岩、三波川変成帯
T01 変成岩とテクトニクス	口頭発表	9/15 第2会場(E)	T1-O-14	エントリー	國谷 七海	ドローン磁気探査による蛇紋岩分布の抽出：赤石山地北部・三波川帯の例	近年、ドローンを使った地球物理学的観測により、広域な観測を簡単かつ低コストに実施できるようになった。本公演は、蛇紋岩体（長野県赤石山）のドローン磁気探査を行った結果を報告しており、次世代型の地質調査に関する展開が紹介される。	ドローン (UAV)、磁気探査、蛇紋岩
T01 変成岩とテクトニクス	口頭発表	9/14 第2会場(E)	T1-O-5	エントリー	権藤 洸人	東南極セール・ロンダーネ山地プラットニーバネに産するザクロ石→黒雲母片麻岩中の超高温変成作用を示唆するルチル	著者らは、東南極セールロンダーネ山地に産するグラニュライト相のザクロ石→黒雲母片麻岩から、ザクロ石中のルチルの産状とZr含有量に着目することで、超高温変成作用の痕跡の検出に成功している。グラニュライト相に達する超高温変成帯における超高温変成作用の空間分布やそのテクトニクスの解明に貢献することが期待される。	東南極セール・ロンダーネ山地、超高温変成作用、ルチル
T01 変成岩とテクトニクス	口頭発表	9/14 第2会場(E)	T1-O-2	エントリー	北代 拓人	宮崎県、尾鈴山酸性岩体に産するS-type花崗岩類における下部地殻の部分溶融と組成変化	西南日本全域で生じた中新世中期のフレアアップを記録する尾鈴山酸性岩体を対象としている。野外調査および岩石記載を元に主岩相（溶結凝灰岩、花崗閃緑斑岩）の層序や他岩相（安山岩質MME、堆積岩起源ゼノリス）との地質学的関係性を明確にし、主岩相の全岩化学組成だけでなく他岩相の岩石学的解析を展開することで、尾鈴山酸性岩体のマグマ進化過程を構築しており、フレアアップ発生機構への理解が深まることが期待される。	フレアアップ、西南日本外帯、尾鈴山酸性岩体
T02 マグマソース・マグマ供給系から火山体形成・熱水変質まで	口頭発表	9/14 第6会場(E)	T2-O-4	招待講演	西本昌司	日本におけるエビ閃長岩の発見とその意義	エビ閃長岩(episyenite)は、国内ではあまり知られていない岩石ですが、熱水変質岩の一種で、特に花崗岩の熱水変質過程を理解する上で重要な研究対象です。国内初のエビ閃長岩の研究報告は、岐阜県瑞浪市で掘削された花崗岩ボーリングコア中から発見されたものについてです(Nishimoto et al., 2014)。本講演では、その発見者である西本昌司氏に、発見に至るまでの経緯や地質学的意義などについて紹介していただきます。	エビ閃長岩、花崗岩、熱水変質
T03 文化地質学	口頭発表	9/15 第1会場(E)	T3-O-7	招待講演	田中尚人	人々の暮らしから読み解く、阿蘇の文化的景観20年	2004年の景観法運用を契機に、阿蘇では火山と共生する「耕地・集落・森林・草原」の土地利用が文化的景観として注目され、2017年以降は国の重要な文化的景観に選定・拡大された。野焼きや放牧による草原維持、生物多様性の保全、農耕祭事や信仰の継承などが評価され、農耕の起源から水利整備、鉄道開通や観光発展、災害復興までの歴史を背景に、文化的景観は、持続可能な地域づくりに資する貴重な資産となっている。	観光法 文化的景観 草原
T03 文化地質学	口頭発表	9/15 第1会場(E)	T3-O-11	招待講演	一村一博	たかが「石」されど「石」	地球の営みが造った「石」は、私たち人類の発展になくはならないものである。特に火山の大噴火が造った「石」の恩恵は、九州の文化形成に計り知れない影響を与え続けている。中でも「石橋」は、大噴火が造った難所を「石」の恩恵で克服した建造物であり、貴重な文化的土木遺産である。石橋の歴史、それを築造した石工集団、石橋の景観、保全活動などについて紹介していただく。	阿蘇 火山噴火 石橋
T04 岩石・鉱物の変形と反応	口頭発表	9/15 第3会場(E)	T4-O-8	招待講演	氏家恒太郎	スロー地震の地質学的痕跡を探る	近年、スロー地震の発生源を経験したと考えられる付加体および高圧変成岩露出域における露頭観察により、スロー地震の発生解明に関する研究が行われている。本発表では、上記研究の先駆者である講演者らによって明らかとなった、地震学的に観測される低周波微動の地質学的痕跡や、測地観測で観測できない速度での変形の痕跡などについて紹介していただく。	石英脈、緑泥石→アクリノ閃石片岩、交代作用
T04 岩石・鉱物の変形と反応	口頭発表	9/16 第3会場(E)	T4-O-14	招待講演	亀田 純	火星表層環境の再現を目指した実験装置の整備と今後の研究展望	火星の温度・気圧・大気組成・湿度といった環境条件を再現できるスペースチャンバーや、低重力から過重力まで幅広い重力環境を再現可能な3軸クリノスタットなど、火星表層環境を地上で模擬可能な装置群の整備が講演者らによって進められている。本招待講演では、これらの設備の基本仕様や、今後これらの装置を活用して展開可能な研究の展望について紹介していただく。	火星、スペースチャンバー、3軸クリノスタット
T05 沈み込み帯・陸上付加体	口頭発表	9/16 第2会場(E)	T5-O-1	招待講演	氏家恒太郎	IODP Expedition 405 JTRACKの成果	IODP第405次航海「JTRACK」は、昨年9月から12月にかけて東北地方太平洋沖地震震源域で実施されました。地震後13年を経た応力状態や沈み込み帯の断層構造を解明することが主な目的です。コア採取と検層を実施し、断層を貫く掘削孔に温度計を設置して水理学構造解明に挑みました。本講演では、この最新掘削で得られた成果を速報として紹介し、巨大地震発生要因の理解に新たな視点を提供します。他にも関連する講演が複数あります。	当方口法太平洋沖地震、IODP、JTRACK
T06 中琉球の新たな地体構造单元：徳之島帯の特徴と研究課題	口頭発表	9/14 第7会場(E)	T6-O-2	招待講演	宇野正起	中琉球、徳之島帯の角閃岩類の変成組織と変成履歴	徳之島では、四万十付加体の構造上位に低圧高温型広域変成岩類が累重するが、それらの形成条件の詳細は明らかになっていない。宇野氏は、変成作用の解析手法について新たな視点から挑戦され、流体反応の物理化学プロセスの実態に迫る研究を推進されている。その手法を徳之島のマフィック変成岩（角閃岩）に応用して得られた温度圧力条件などについてご講演いただく。	角閃岩 変成作用 温度圧力経路
T06 中琉球の新たな地体構造单元：徳之島帯の特徴と研究課題	口頭発表	9/14 第7会場(E)	T6-O-3	招待講演	桑谷 立	角閃石の温度圧力履歴からみた丹沢変成岩のダイナミクス	桑谷氏は、変成作用の果敢たる脱水作用一般について研究され、丹沢変成帯についても成果をあげておられる。本セッションでは、井之川岳変成複合体（徳之島帯）の変成岩類構成と類似した特徴を有する丹沢変成帯についての最新の研究成果を講演していただく。本講演は、徳之島帯の帰属について重要な示唆を与えるものと期待される。	丹沢 衝突帯 角閃石
T07 堆積地質学の最新研究	ポスター発表	9/16	T7-P-6		大川 真弘	高解像度デジタル露頭モデルを用いた不連続構造の自動抽出法の開発と三浦層群三崎層を対象とした三次元地質構造調査への適用	本講演では、SfM (Structure from motion)多視点ステレオ写真測量技術を用いて作成したデジタル露頭モデルから地質構造を自動抽出することで、これらの技術の地質調査への適用を評価している。地質調査には研究者の主観性が強く出ることが多かったが、このような技術が進めばより説得力のある客観的なデータが誰にでも取得できるようになるのかも示れない。	SfM多視点ステレオ写真測量技術、デジタル露頭モデル、自動抽出

T07 堆積地質学の最新研究	口頭発表	9/15 第5会場(E)	T7-O-4	招待講演	池原 研	海底のイベント堆積物を用いた地震履歴研究の現状と今後のチャレンジ：日本周辺海域の研究から	海底に堆積するタービダイトは昔から堆積学者の興味を惹きつけてきており、数多くの研究がなされてきた。長年にわたる知見の蓄積や研究者の経験に基づいた深い洞察力に加え、最近の計測・測定機器の進歩が組み合わさることにより、精度の高い地震履歴の解明につながりつつある。タービダイト研究の将来的な展開に注目したい。	タービダイト、巨大地震、環境変動
T07 堆積地質学の最新研究	口頭発表	9/16 第5会場(E)	T7-O-14	招待講演	山田 泰広	九州地域の天然水素ポテンシャル評価について	水素は従来、石油や天然ガスのような天然資源として存在するとは考えられていなかったが、近年、世界各地で天然水素の発見が報告され、低コストなカーボンニュートラル燃料として、研究機関による調査や、ベンチャー企業による探鉱、開発が進められている。 本研究は、これまでの天然水素に関する知見を踏まえ、九州地域の地質ポテンシャル評価スタディを進めているものあり、その成果が注目される。	天然水素、九州、ポテンシャル評価
T07 堆積地質学の最新研究	口頭発表	9/16 第5会場(E)	T7-O-15		山本 和幸	古気候変動、堆積・続成作用、および油田形成の相互作用により生じた下部白亜系干潟炭酸塩岩 (Tidal flat carbonates) の孔隙率、浸透率の不均質性	油田開発では、石油を貯留する地層の不均質性を理解することは、合理的な開発計画を考える上で最も重要な要素の一つである。 本研究は、干潟炭酸塩岩の堆積環境による岩相変化と、その後の続成作用による各岩相の孔隙率、浸透率の増加、減少の両方の作用を詳細に検討し、地層の不均質性を包括的に解明しており、有益な洞察を与えるものである。	干潟炭酸塩岩、続成作用、不均質性
T07 堆積地質学の最新研究	口頭発表	9/15 第5会場(E)	T7-O-7	エントリー	清原 愛	長野県白骨温泉に分布する化石トラバーチンの堆積学的・地球化学的特徴と形成過程の解明	トラバーチンとは、温泉水から形成された炭酸カルシウム沈殿物である。トラバーチンは日本各地に存在するが、白骨温泉には日本最大規模の化石トラバーチンが分布しており、一部は国の特別天然記念物にも指定されている。本研究は白骨温泉において、かつてどのように温泉水が流れ、トラバーチンが形成されていたのか、堆積学と地球化学からその詳細を明らかにしている。	温泉、石灰華、古環境
T07 堆積地質学の最新研究	口頭発表	9/15 第5会場(E)	T7-O-9		松田 博貴	鹿児島県喜界島における上部更新統サンゴ礁複合体堆積物の堆積過程	琉球列島には、約160万年前以降にサンゴ礁などによって形成された琉球層群が広く分布する。本研究は、喜界島に見られる琉球層群の垂直的・水平的な変化を詳細に調査することで、徐々に浅海化が起きたことや、同じ時代でも地形や海流の影響で異なる堆積物が形成されたことなどを明らかにしている。	喜界島、琉球層群、海水準変動
T09 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク	ポスター発表	9/14	T9-P-1		吉岡敏和	阿蘇火砕流だけじゃない！ーおいた量後大野ジオパークの地質の多様性ー	本ジオパークのエリアには、カンブリア紀後期から第四紀更新世後期まで、古第三紀以外のほぼすべての時代（紀）の地層・岩石が分布し、更に岩石の種類としては堆積岩、火成岩、変成岩のすべてが存在する。メインテーマの巨大火砕流（阿蘇火砕流）は本地域を代表する地質で自然や文化を特徴づける要素であるが、多様な地質とそれらに繋がる自然や文化も組み込むことで、より深く楽しくジオストーリーができることが期待される。	おいた量後大野ジオパーク、地質多様性、阿蘇火砕流
T09 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク	口頭発表	9/14 第1会場(E)	T9-O-7		天野 一男	DEEP TIMEとSHALLOW TIMEをつなぐ物語ー『大地と人の物語』発行の意義ー	日本地質学会が各地のジオパークに伝わる伝承や神話、風土記などの文化的ストーリーと、それに対応する地質現象を結びつけて紹介する『大地と人の物語』を出版した。本書を通じて、様々な地質現象と、それに対して暮らしてきた人々の知恵や文化を、統合的に理解し、地球規模の長い時間軸すなわち「ディープタイム」へと想像力を広げていくことができる。	ジオパーク、文化、神話
T10 テクトニクス	口頭発表	9/15 第2会場(E)	T10-O-1	招待講演	遠藤 俊祐	海洋底から造山帯へ：三波川変成帯の深部付加プロセス	高圧型の広域変成帯は、沈み込み境界の深部で起こるさまざまな現象を理解するための「窓」として重要視されてきた。 発表者は、四国の三波川変成岩類を主な対象として、緻密な野外地質調査と岩石記載に基づく研究を展開し、それらの形成に関わる底付け付加作用の実態を明らかにしてきた。 本招待講演では最新の研究成果に基づき、三波川変成帯からみた白亜紀の海洋プレートの特徴や付加テクトニクスについて紹介していただく。	#三波川 #海洋底 #付加
T10 テクトニクス	口頭発表	9/15 第2会場(E)	T10-O-2		ウォリス サイモ	西日本白亜紀地質進化に対する海嶺沈み込みモデルの再検討	日本列島の形成過程を理解するうえで、海嶺の沈み込みはきわめて重要な地質イベントの一つである。 特に白亜紀の海嶺沈み込みは、三波川・領家変成作用や大規模な火成活動と深く関連づけられて議論されてきた。 しかし近年、従来の枠組みでは説明しきれない地質記録が相次いで報告され、海嶺沈み込みモデルの再検討が求められている。 本発表では、この海嶺沈み込みモデルに関する最新の知見を整理し、従来の理解を踏まえつつ一歩進んだ新たな枠組みをご紹介いただく。	#白亜紀 #海嶺 #沈み込み
T11 都市地質学：自然と社会の融合領域	口頭発表	9/15 第4会場(E)	T11-O-8	招待講演	石原 与四郎	九州地盤情報共有データベースを用いた浅層地質の三次元モデル構築の試み	都市域における浅層の地質・地盤特性の三次元的な分布の把握は、平野の形成過程の解明のみならず、地盤の強度や液化化ポテンシャルといった工学的観点からも極めて重要な課題である。本講演では地質・地盤の三次元モデルの構築手法の概要と、演者が行ってきた九州地盤情報共有ボーリングデータベースを用いた浅層地質・地盤モデルの事例を中心に紹介し、今後の高精度化の可能性について議論する。	都市地質、三次元地質モデル、ボーリングデータベース
T11 都市地質学：自然と社会の融合領域	口頭発表	9/15 第4会場(E)	T11-O-1		米岡 佳弥	都市域の3次元地質地盤図：「千葉県北部延長」地域における更新統下総層群の層序	演者は3次元地質地盤図「千葉県北部延長」地域の調査において、更新統下総層群のテフラ層序を詳細化し、関東平野中央部の継続的な沈降運動とMIS 7c最大海進期の海陸境界付近の層相変化を明らかにした。地下浅部の地層の連続性と層相変化を正確に把握できたことにより、持続可能な地下水利用や地盤リスク評価への貢献が期待される。	3次元地質地盤図、下総層群、千葉県
T12 地球史	口頭発表	9/15 第5会場(E)	T12-O-19	招待講演	松本廣直	白亜紀堆積岩を用いたオントンジャウ海台の噴出年代の制約	巨大火山噴火は気候や生態系に甚大な影響を及ぼし、地球史における主要な環境変動の要因となってきた。松本廣直氏は、白亜紀における世界最大級の火山活動の産物であるオントンジャウ海台の噴火史と、それに伴う地球表層環境変動との因果関係を同位体地球化学的に精査し、関係解明に大きく貢献してきた気鋭の若手研究者である。本講演では、堆積岩に刻まれた記録を通じて、大規模火山活動が環境に及ぼす影響の最新成果が示される。	白亜紀、オントンジャウ海台、海洋無酸素事変1a
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	ポスター発表	9/15	T13-P-11	エントリー	檜垣 悠斗	紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県美杉地域南部における75 Ma苦鉄質岩～中間質岩類と花崗岩類の地質構造	中央構造線その領家深成岩類のマイロナイト化形成史はK-Ar年代で復元されてきたが、新規貫入岩による若返りがありえるため複数回のマイロナイト化は検出しこなう可能性がある。この研究では若返りを拾いにくいジルコンU-Pb年代を測定することによって高精度の火成活動史や変形史を考察するものである。	マイロナイト、高見山、畑井トール岩
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	ポスター発表	9/15	T13-P-19	エントリー	富樫 尊美	アバタイト微量元素組成を用いた南東北に分布する中新世－第四紀の凝灰岩と海洋コアに挟む凝灰岩との対比の試み	奥羽脊梁地域には新生代後期の大規模陥没カルデラが多数分布しているが、それぞれのテフラ物質の識別・対比は不十分である。この研究ではアバタイトの微量元素分析とジルコン年代測定にもついで陸上のカルデラ噴出物と三陸沖の海洋コアとの対比を試みるものである。このような基礎データを蓄積することで広域テフラの指標を中新世まで押し上げることができる。	アバタイト微量元素組成、三陸沖、木賊カルデラ、城ノ入沢カルデラ
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	ポスター発表	9/15	T13-P-12	エントリー	李 璵	紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県飯南地域の例	紀伊半島東部の領家変成帯は、延性・脆性変形を被った火成岩と低P/T型変成岩から構成されており、この変形履歴は、後期白亜紀ユーラシア大陸東縁の火山弧隆起の地殻変動過程を理解する鍵となる。この研究では年代測定を実施し、変形の産状区分と組み合わせることによりマイロナイト化の回数や時期について新たな制約を与えるものである。	マイロナイト、畑井トール岩、三峰山トール岩
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	ポスター発表	9/15	T13-P-16	エントリー	川並 仁美	牟婁層群・熊野層群の層序に基づく「サラシ首層」の成因と層序学的帰属の検討	サラシ首層は紀伊半島南部に分布する奇妙な地層である。数メートルの巨礫を含む特異な含角礫泥岩層で帰属や成因についてこれまで多様な意見が提出され議論されてきた。この研究では現地の緻密な産状観察と堆積相解析によりこの問題を解決しようとするものである。	泥火山、含角礫泥岩

T13 地域地質・ 層序学：経過と 集大成	ポスター発表	9/15	T13-P-6	エントリー	前 圭一郎	夜久野オフィオライト久米南岩 体の全岩主要化学組成	舞鶴帯には古生代後期に形成された「夜久野オフィオライト」が知られてい るが、この形成史や古生代末期の東アジア周辺発達史については未解明な部 分が多い。この研究では久米南岩体に産する変斑れい岩、ドレライト・玄武 岩、トータル岩の全岩化学分析にもとづいてマグマの起源や系列について論 じるものである。	舞鶴帯, mg#- TiO 固, 極基性岩
T13 地域地質・ 層序学：経過と 集大成	ポスター発表	9/15	T13-P-26	エントリー	上岡 竜貴	松江市玉湯町の川合層砂岩に見 られる不整合境界の特徴と堆積 構造,およびそれから推定され る古環境	本研究でとりあげる川合層は中部中新統で日本海拡大に伴う海進期の地層と される。この研究では野外調査と堆積相の記載を行い、海進期の地層がどの ような環境変化・堆積過程をたどったかを明らかにするとともに、基盤との 高角の不整合・層理と平行な不整合がそれぞれ海食崖・波食棚であることな どを示すものである	海食崖, 波食 棚, 日本海拡大
T13 地域地質・ 層序学：経過と 集大成	ポスター発表	9/15	T13-P-27	エントリー	日比野 翔吾	島根県大田市五十猛町周辺に分 布する中新統川合・久利層砂岩 の特徴の多様性	本研究は島根県大田市の中新統の砕屑岩・火山砕屑岩の産状観察にもとづい て従来は曖昧であった砕屑岩、とくに砂岩を成因的に区別し、それらが陸側 あるいは水底火山からの堆積物供給の中で複雑な形成過程を経たことを示そ うとするものである。	水中火山岩, タービダイト, スランプ褶曲
T13 地域地質・ 層序学：経過と 集大成	口頭発表	9/16 第6会場(E	T13-O-18	招待講演	羽地 俊樹	山陰東部, 中新統北但層群にお ける地域地質・層序学的基礎研 究：最近10年の進展と残る課題	山陰地域は前世紀後半以降, 研究の進展が乏しい典型的な日本のフィールド 事情を示す地域である。羽地氏は同地域において約10年間にわたり稠密な野 外調査を実施し, 小地域の研究成果を着実に積み重ねるとともに, それらの 成果を基に前世紀末に提示された堆積盆発達史の精緻化を目指している。本 講演では, 今後のフィールド研究のモデルとなることを期待し, 羽地氏の山 陰地域における研究事例を紹介いただく。	フィールドジオ ロジー, 地質 図, 高精度堆積 盆発達史
T13 地域地質・ 層序学：経過と 集大成	口頭発表	9/16 第6会場(E	T13-O-14	エントリー	金指 由維	青森県下北半島西部, 佐井地域 に産する中新世火山岩類の産状 とジルコン-U-Pb年代	東北日本の中期中新世は引張場と圧縮場が共存したリフト・ポストリフト遷 移期であり, 青弧海盆火山活動から島弧火山活動へ移行した時期でもある。 この研究では佐井地域の地質踏査にもとづく地質図をベースに, 火山岩の年 代測定・全岩化学分析結果に基づいて引張テクトニクスの継続時期やマグマ 成因について議論する。	リフト・ポスト リフト遷移期, 島弧火山活動, U-Pb年代
T13 地域地質・ 層序学：経過と 集大成	口頭発表	9/16 第6会場(E	T13-O-1	エントリー	高橋 恒佑	北海道蝦夷層群のチューロニア ン/コニアシアン境界における大 型化石・炭素同位体比統合層序 と高精度国際年代対比	T/C境界のGSSPはドイツにあり, 補助境界様式でも欧米にあるのみで, 北西 太平洋地域においてT/C境界がどこに対比されるかは重要な問題である。こ の研究は北海道の古丹別において凝灰岩のアバタイド微量元素組成を用いた 柱状対比により露出欠如を補充し, その上で大型化石・炭素同位体比統合層 序を作成し, T/C境界を数mの制度で特定するものである。	Turoian/Coniecia n boundary, 古丹 別, GSSP
T13 地域地質・ 層序学：経過と 集大成	口頭発表	9/16 第6会場(E	T13-O-16	エントリー	吉田 颯	下北半島, 鮮新世～前期更新世 大畑層分布域に新たに見出され た複合カルデラの地質構造：産 状, 岩石学的特徴, およびジル コン-U-Pb年代からの制約	東北日本弧は島弧火山活動期 (13.5 Ma以降) のカルデラの宝庫である。こ の研究は下北カルデラ群を例に地質踏査による産状観察, 岩石学的記載・年 代測定にもとづいて, 複合カルデラの複雑な層序関係の実態・形成史を明ら かにするものである	大畑カルデラ, 下北カルデラ 群, 炭研層
T14 九州の火山 テクトニクス	口頭発表	9/16 第1会場(E	T14-O-1	招待講演	趙大鵬	地震波トモグラフィーから見た 九州の地震火山活動と沈み込み ダイナミクス	九州地域はフィリピン海プレートが沈み込み成熟した島弧であり、沖縄トラ フと中央構造線の会合部であり、火山弧と別府－島原地溝が交差する、世界 でも特異な地域である。趙大鵬博士はこれまで、地震波トモグラフィーを用 いて九州地域の地下構造、プレートや流体と地震火山活動の関係など数々の 重要な指摘をしてきた。趙博士による九州の地震火山活動とフィリピン海プ レーートの沈み込みダイナミクスは必見である。	地震、火山、地 震波トモグラ フィ
T14 九州の火山 テクトニクス	口頭発表	9/16 第1会場(E	T14-O-6	招待講演	三好雅也	中部九州阿蘇地域におけるマグ マ活動の時間変化とそのテクト ニクス背景	三好雅也会員らは中部九州の火山岩の岩石学学的研究に基づき、九州直下に 沈み込んだスラブ起源流体のマントルへの関与を研究してきた。阿蘇地域の 400万年間に及ぶ火山活動、マグマの劇的な変化から、その背景となる沖縄ト ラフの拡大やフィリピン海プレートの関与までを論じる「阿蘇科学」の最先 端を見逃すな。	マグマ活動、テ クトニクス、阿 蘇地域
T14 九州の火山 テクトニクス	口頭発表	9/16 第1会場(E	T14-O-3		木尾竜也	霧島山新燃岳2025年噴火の火山 灰構成粒子の時間変化（速報）	霧島山新燃岳では2025年6月22日に約7年ぶりに噴火活動を再開し、8月22日 現在も断続的な噴火が継続し、深部からのマグマ供給も示唆される。木尾竜 也会員らは、刻々と変化する火山噴火に伴う火山灰構成粒子の時間変化を丹 念に調査している。新燃岳のマグマ内や火口内で何が起こっていて、今後ど う変化するのか、最新の研究成果に注目されたし。	霧島山新燃岳、 火山灰、噴火推 移